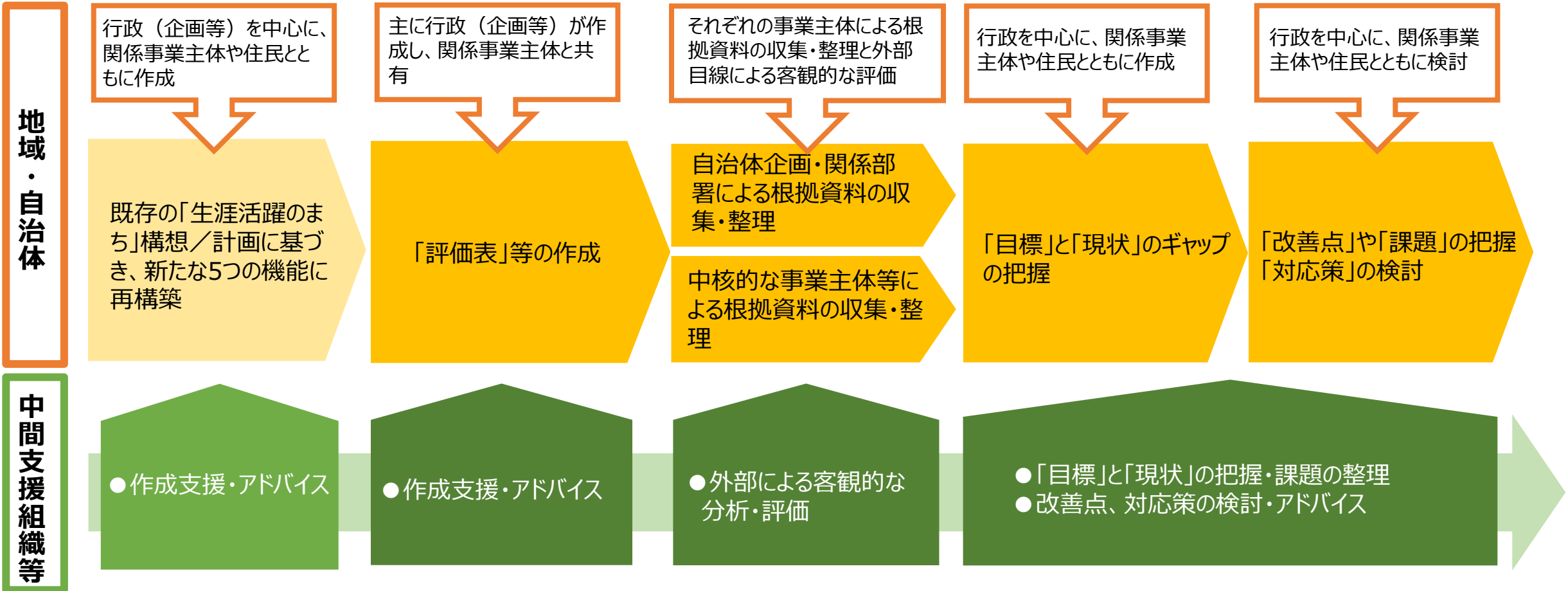


1. 具体的な評価と中間支援の方法（流れ）

目的

- すでに取組を進めている自治体に対して、全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」のコンセプトに沿って、既存の取組を5つの機能に再構築したうえで、それぞれの機能ごとに達成したい目標と現状のギャップを把握し、関係者と共有の上、次の改善策や対応策を検討する。以上の一連の流れを中間支援組織の支援を受けながら試行する。
- 試行により、評価手法の改善、中間支援組織の在り方について検討する。
- なお、自治体の意向により、中間支援組織による支援は、どの段階からでも可能とする。



2. 評価手法と「評価表」について（説明用）

評価の必要性（「生涯活躍のまち」づくりに関するガイドラインより）

- 短期的な視点で個々に対応するのではなく、エリア全体を視野に入れた上で総体として捉え、中長期的な視点で各機能を意識し、コミュニティ全体の魅力の向上を図るという視点が不可欠
- 地域のコミュニティに関わるあらゆる者・行政・事業主体が同じビジョンを共有することが重要である。
- 生涯活躍のまち」は分野横断的な取組が必要であり、中長期的な目標の達成に向け、PDCAを回していくことが重要である。

評価の目的

- 継続的なコミュニティづくりに対応
- 行政・事業主体・住民の協働を促進
- 行政の説明責任を支援

<評価手法と評価表のイメージ>

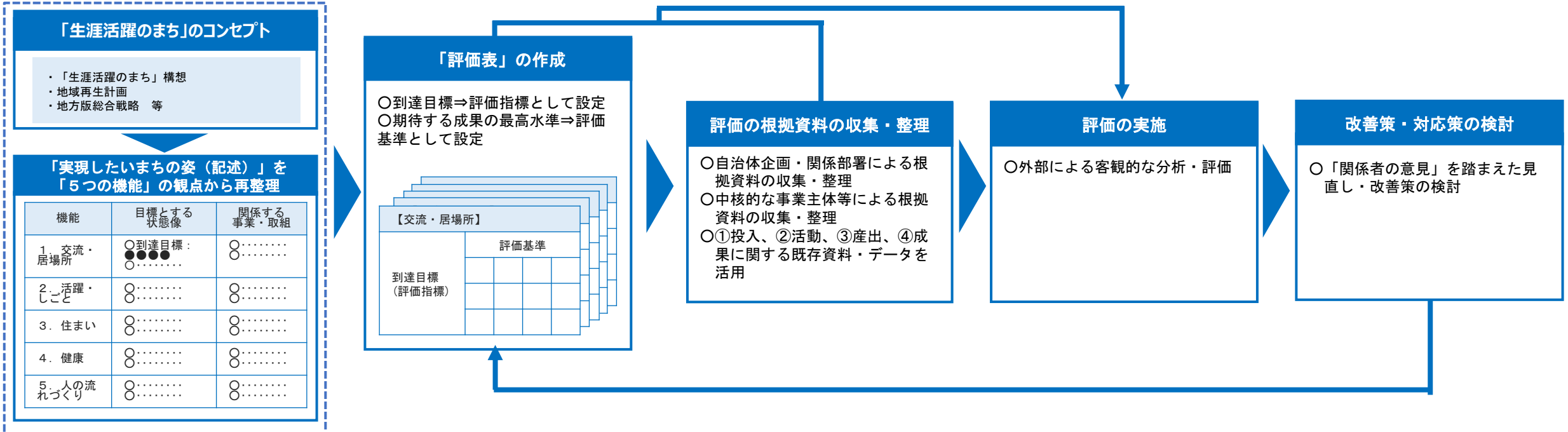
STEP 1：コンセプトの確認と5つの機能への再整理

STEP 2：機能ごとに「評価表」の作成

STEP 3：根拠資料の収集・整理

STEP 4：評価の実施（外部評価を受ける）

STEP 5：改善策・対応策の検討



「生涯活躍のまち」のコンセプト

- ・「生涯活躍のまち」構想
- ・地域再生計画
- ・地方版総合戦略 等

「実現したいまちの姿（記述）」を「5つの機能」の観点から再整理

機能	目標とする状態像	関係する事業・取組
1. 交流・居場所	○到達目標： ●●●●● ○●●●●	○…………○
2. 活躍・しごと	○…………○	○…………○
3. 住まい	○…………○	○…………○
4. 健康	○…………○	○…………○
5. 人の流れづくり	○…………○	○…………○

「評価表」の作成

- 到達目標⇒評価指標として設定
- 期待する成果の最高水準⇒評価基準として設定

到達目標 (評価指標)	評価基準			
【交流・居場所】				

評価の根拠資料の収集・整理

- 自治体企画・関係部署による根拠資料の収集・整理
- 中核的な事業主体等による根拠資料の収集・整理
- ①投入、②活動、③産出、④成果に関する既存資料・データを活用

評価の実施

- 外部による客観的な分析・評価

改善策・対応策の検討

- 「関係者の意見」を踏まえた見直し・改善策の検討

3. 調査研究への参加について

調査研究に参加し、「生涯活躍のまち」の機能を再整理し、評価、中間支援を受ける意向がある自治体



WEBによる説明会を開催します。



○参加決定
※人口規模や取組内容などがばらつくように決定させていただきます。
○どの段階から支援を受ける意向があるか確認させていただきます。

①庁内連絡（連携）体制

- ・評価の中心となる地方創生担当（企画等）及び事業を実施している担当部署による連絡（連携）体制を作ってください。

②民間の事業主体との連絡（連携）体制

- ・実際に事業を行っている事業者に対して趣旨を説明し、連絡（連携）体制を作ってください。

③「評価手法」の書式一式を送付

- ・「評価手法」に関する書式を一式送付しますので、記入できる部分を記入しておいてください。

④第1回訪問（またはWEB）による外部評価の試行

- ・記載いただいた「評価表」等を参考に、中間支援組織及び内閣官房、研究会委員、事務局が訪問します。
- ・実態調査やヒアリングをさせていただき、課題を洗い出します。

⑤第2回訪問（またはWEB）による中間支援の試行

- ・第1回の訪問に基づき、第2回目の訪問により課題に対応して中間支援を試行します。（方法：事業者や住民も含めた懇談会・ワークショップ、アドバイスなど）